

お化け煙突

児玉 寛嗣

自宅から 20 分ほど歩くと隅田川の東岸を川沿いに走る墨堤通り（都道 416 号線）に出る。川の下流方向に向かって進むと、右手に東京電力の営業所がある。その先、隅田川の川岸まで帝京科学大学のキャンパスが広がっている。この場所にかつて火力発電所があった。火力発電に関わる仕事に携わった者として興味深い場所だ。

1905 年（明治 38 年）に日本最初の交流電気を供給する火力発電所が浅草に建設された。しかし、この発電所は関東大震災で壊滅的な被害を受けて廃止された。代わりにこの地に発電所が建設された。1926 年（大正 15 年）のことである。隅田川の潮汐限界点（満ち潮時に潮が逆流する限界の地点）のため、燃料の石炭を運ぶ船が下流から航行しやすいという水運の便の良さがあったので用地として選ばれたようだ。浅草の発電所も煙突は幸運にも地震での崩壊を免れたので、ここに移築して使われた。それは高さが 80 メートルほどあり、高い建物のない時代、どこからも見られる存在だった。4 本ある煙突は見る場所によって、その数が 1〜4 本に変化する「不思議な煙突」だということで「お化け煙突」と呼ばれ、発電所のシンボルとして人々に親しまれた。発電所は東京大空襲を始めとする数々の空襲でも被害を受けることもなく電気を供給し続けた。ロシアはウクライナでインフラである発電施設を標的としているが、アメリカは違っていた。もっとも終戦後に占領軍が東京に駐留する時に電気は欠かせないと判断したからかもしれない。米軍が沖縄に駐留するにあたり、発電装置を備えた発電船をいち早く係留して軍と軍関係者に電気を供給した。出張先の沖縄電力でその船の写真を見たことを思い出す。

発電所は、その後、経済成長期に次々と建設された新鋭の発電所にとって代われ、1963 年（昭和 38 年）に役割を終え、取り壊されることとなった。煙突だけは残すようにとの地元の強い要望があったそうだが解体された。今では帝京科学大学のキャンパスに煙突を記念するモニュメントがあるだけだ。

